

人・モノの流れを支える

関門橋・関門トンネルは補修工事や

通行止めになっても円滑な交通を確保

事故のため、通行止めが起きています。

するため、下関北九州道路が必要です。

関門橋・関門トンネルの現状と通行止めについて

■関門橋 (延長 1,068m)

- ・開 通：昭和48年11月 (40年経過)
- ・交通量：37,597台/日 (H24年度)



○関門橋の通行止め状況 (H22～H26)

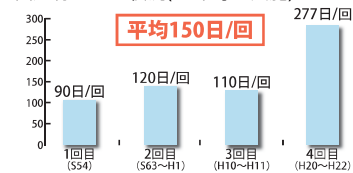
日付	原因	備考
H26.02.08	積雪	上下線 約4時間半通行止め
H25.11.16	事故	上り線 約4時間半通行止め
H25.02.13	事故	下り線 約3時間半通行止め
H24.12.07	事故	下り線 約2時間半通行止め
H22.03.10～11	積雪	上下線通行止め
H22.02.22	事故	上り線通行止め

■関門トンネル (延長 3,461m)

- ・開 通：昭和33年3月 (56年経過)
- ・交通量：28,631台/日 (H24年度)



○関門トンネルのリフレッシュ工事による全面通行止めの状況(10年毎に実施)



○関門トンネルの事故・落下物等による通行止め回数

年度	通行止め回数
H21	168回
H22	178回
H23	233回
H24	215回
H25	175回
合計	969回

- ・5年間の回数 **969回**
- ・1日平均回数 **0.5回/日**

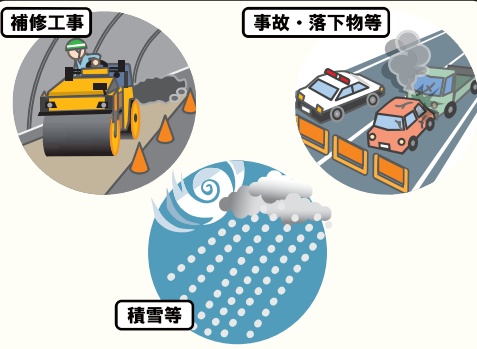
通行止めになれば、地域の道路が渋滞します

○関門トンネルが通行止めになると、国道2号・3号・199号など幹線道路が著しく渋滞します。このため、下関・北九州地域全体の物流や交通に支障をきたします。

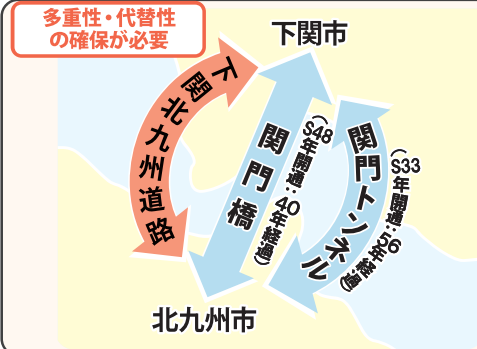
関門トンネルが通行止めとなった事例 平成25年1月23日



通行止めにつながるリスク



下関北九州道路



整備の効果

○関門トンネル通行止め時の周辺道路^{※1}の渋滞による50年間の損失額の試算



下関北九州道路：整備なし 下関北九州道路：整備あり
 ※関門トンネルの通行止め：50年間で835日 (工事：750日、事故等：85日)
 ※参1：関門トンネルを中心とした約40km圏内

関門トンネル内で事故が発生し交通が遮断！ 約2時間、全面通行止め！



▲関門トンネル通行止時の渋滞状況(H25.1.24朝刊：山口新聞)

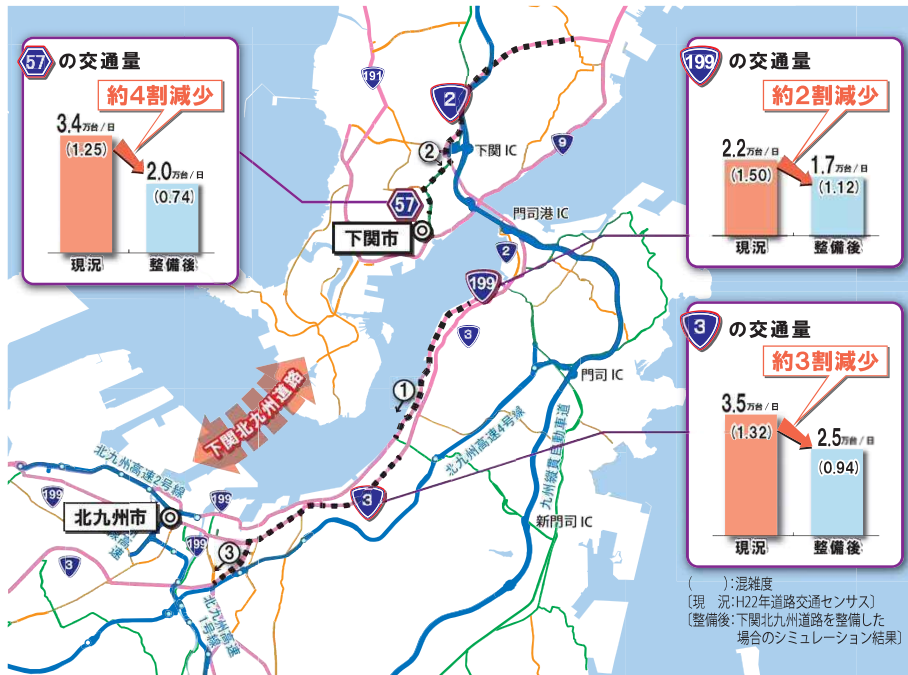
下関北九州道路の整備効果

下関北九州道路ができれば地域の

交通が大幅に改善されます。

効果1 交通混雑の緩和が期待されます

- 下関・北九州地域では、幹線道路の慢性的な交通混雑が発生しており、地域の生活や円滑な物流に支障をきたしています。
- 下関北九州道路を整備することで、国道2号・国道3号・国道199号等から下関北九州道路に交通が転換し、交通混雑している道路の区間が減少します。



※混雑度とは:設計に用いる交通容量と実際の交通量の比であり、値が1を超えると速度が低くなり、道路が混雑している状態です。
 ■■■■:車が多く、速度が低い区間



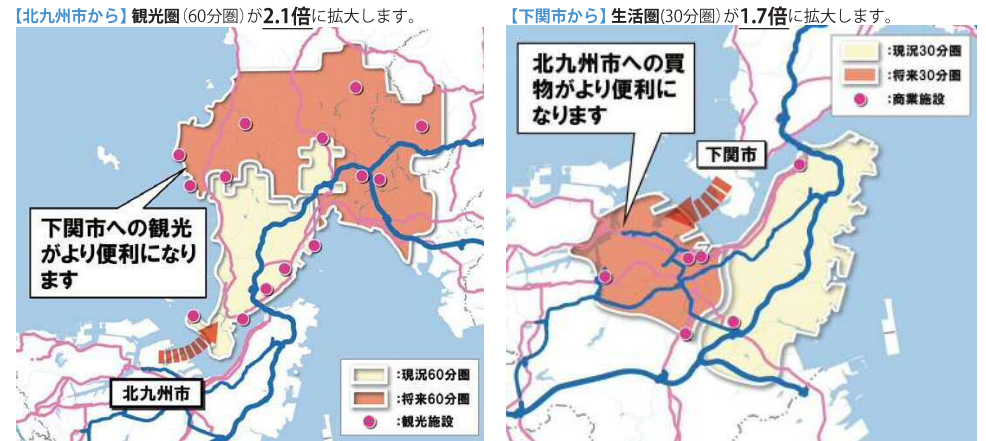
効果2 所要時間が短くなります

- 下関市～北九州市間の所要時間は、関門トンネルを利用すると昼間は約50分(約20km)です。下関北九州道路を整備することで、約25分短縮され、所要時間は約25分(約14km)と半分になります。(走行距離は3割減少)
- 道路の混雑の緩和や、走行経費の軽減などにより経済効果は、50年間で約2,070億円と試算されます。



効果3 観光や買物がより便利になります

- 下関・北九州地域には、魅力ある観光地や商業施設が多数あります。下関北九州道路を整備することで観光圏域や生活圏域が拡大します。



※住民アンケート調査結果(H26.1):北九州市から下関市への第1位の移動目的は観光です。
 :下関市から北九州市への第1位の移動目的は買物です。